

研究の概要

I 研究主題 「児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方 － 適切な実態把握に基づいた実践をとおして － 」

II 主題設定の理由

本校は病弱を主障害とする児童生徒と知的障害を主障害とする児童生徒に対して教育を行う知病併置校である。全校生徒22名のうち約8割が重度重複障害のある児童生徒で、半数程が医療的ケア対象児童生徒である。本校の教育目標は「自らの病気や障害を乗り越え、力いっぱい努力して明るく生きがいのある生活を送ることができる児童生徒を育てる」である。本年度の重点目標「(1)特別支援教育の専門性の向上」には、「児童生徒一人一人の能力や可能性を伸ばす教育の実践と研究」を掲げている。

本校児童生徒の共通の課題として「コミュニケーション能力の向上」が挙げられる。本校は、障害の程度や発達の状況等それぞれ実態が大きく異なる児童生徒が在籍している。コミュニケーションの面でも、発声や身振り等で意思表示をすることが困難な児童生徒や言語による表出ができるものの自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられない児童生徒も多く、ほとんどの教師がコミュニケーション能力の育成に難しさを感じている。

児童生徒のコミュニケーション能力を引き出す実践に取り組むにあたり、児童生徒の実態を適切に把握することが必要である。本校における児童生徒の実態把握については、担任や教科担任が個々に確認した範囲での情報であることが多く、その把握の方法が正しいのか、客観性はあるのかという点で十分とは言えないことが課題として挙げられる。そこで「適切な実態把握」に視点を置いて研究し、それを基に児童生徒の目標設定と実践を進められるようにしていきたい。

これらのことから、「児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方 － 適切な実態把握に基づいた実践をとおして － 」を今年度の校内研究のテーマとして設定することとした。

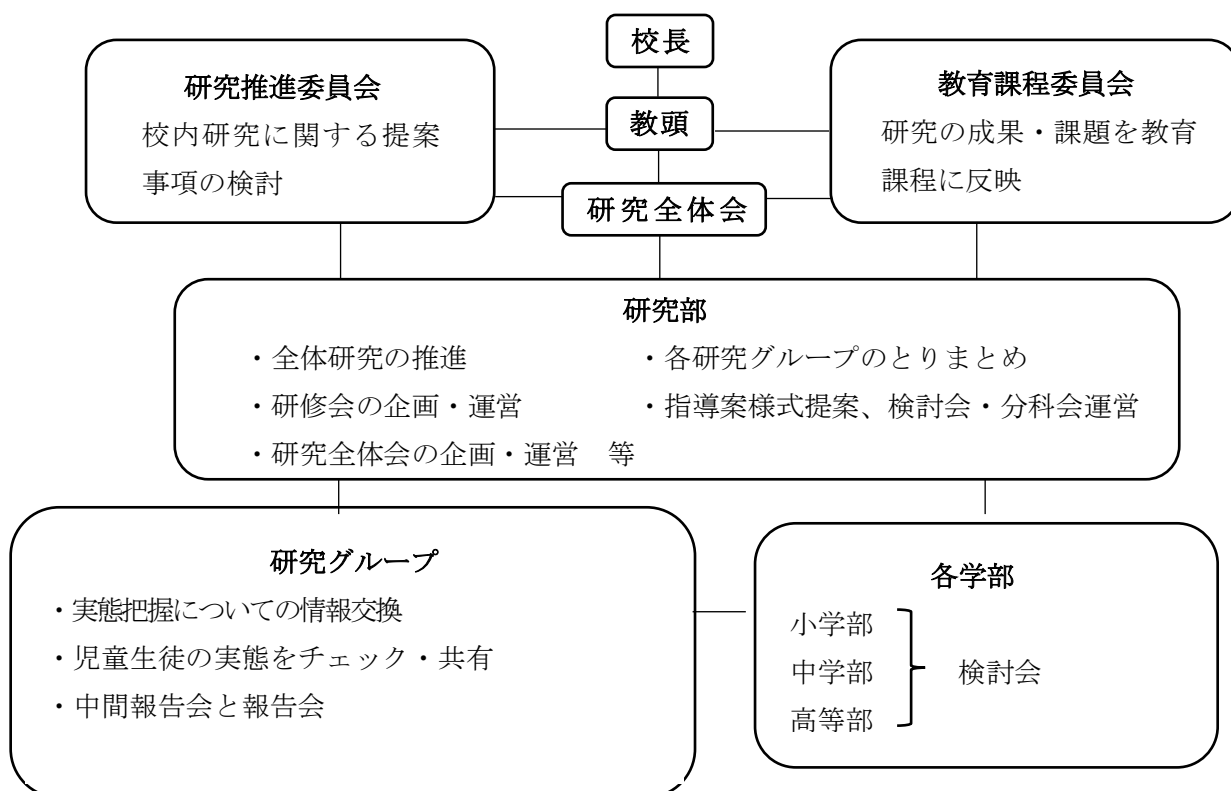
III 研究の目標

「適切な実態把握」をとおして、児童生徒の目標設定と実践を進めることで、児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の充実を目指す。

IV 研究仮説

客観的・多角的な実態把握をすることで児童生徒の目標が明確に設定され、児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出し伸ばすための効果的な支援ができるのではないかと仮説を立てる。

V 研究組織



VI 研究の構想図（別紙）

VII 研究の内容と方法

本研究では、教師が個人またはグループで事例研究を行う。「適切な実態把握」を行うために、段階表やチェックリスト等を活用したり、研究グループ活動で複数の目でチェック・共有したりする。実態把握により捉えた児童生徒の特性や課題を基に、コミュニケーション能力に視点を当てた目標の設定とコミュニケーション能力を引き出す支援の検討をして実践を行う。取り組んだ内容は、事例研究報告書としてまとめる。また研修会を行い、コミュニケーション能力を引き出す指導法や実践例等の学んだことを実践に生かす。研究全体会では、成果や課題を共有し、次年度の研究に生かすことができるようにする。

(1) 研究グループ活動について

・年間4回の実施とし、小学部、中学部、高ADEコース、高Bコース、高Cコースと5つの小グループを設定して意見交換や情報共有を行う。

- ① 5月 1日（水）
 - ・実態把握についての現状確認、情報交換・適切な実態把握について共通理解
 - ・段階表やチェックリスト等の紹介や意見交換 ・対象児童生徒の検討
 - ・段階表やチェックリスト等の検討 ・実態把握の実施に向けて計画立案
- ② 6月27日（木）
 - ・実態把握の結果から、児童生徒の実態をグループでチェック・共有
 - ・目標設定（コミュニケーション能力に関すること）
 - ・コミュニケーション能力を引き出す支援の検討
- ③ 11月22日（金）
 - ・事例研究中間報告 ・グループでの意見交換・情報共有
- ④ 1月17日（金）
 - ・グループ内で事例研究報告会

(2) 現職教育研修会を行い、児童生徒のコミュニケーション能力を引き出す指導法や実践例等の学んだことを実践に生かす。

(3) 年度末に研究全体会を実施し、研究グループ活動の成果や課題について共有し、次年度の研究に生かす。

(4) 研究の計画（令和6・7年度） 本テーマについては2年計画とする。

月	全体	事例研究・グループ活動	研究部会・研推委
R 6 4	第1回研究全体会(4/25) 学校訪問指導案様式確認 意識調査①		研究推進委員会①(4/17) 学校訪問指導案検討 グループ検討
5		研究日①(グループ活動) (5/1)	意識調査①まとめ 事例研究報告書の様式検討
6	事例研究報告書の様式確認	研究日②(グループ活動) (6/27)	
7	学校訪問指導(7/18)		
8	現職教育研修会(8/20)		
9			
10	現職教育研修会(10/21)		
11		研究日③(グループ活動) (11/22)	
12	意識調査②		意識調査②まとめ
1		研究日④(グループ活動) (1/17)	R6まとめ・R7計画立案 研究推進委員会②(1/30)
2	R6校内研究について検討・ 確認(職員会議)	事例研究報告書提出締切 (2/5)	
3	第2回研究全体会(3/17)		R6実践集録作成・送付
R 7 4~5 6~1	1年目の取り組みをベースに 個々の児童生徒の実態をグループでチェック・共有 個別またはグループでの事例研究		実態把握と目標設定

(5) 今年度のまとめ

今年度の校内研究においては、実態把握を行う上で既存のチェックリストを選んで使用した。その上で、研究グループ内で共有したり、相談し合ったりした。これによって、実態把握にさらに客観的・多角的視点を持たせることができた。コミュニケーション能力を引き出す支援については、手立てや教材・教具、場所、場面、関わる相手等で様々な支援が講じられた。その結果、児童生徒のコミュニケーション能力を引き出す支援の充実につながったと考えられる。

次年度は、今年度作成した事例研究報告書等を引き継いだり、個人やグループで取り組む実践等の途中経過を全体で共有したりする機会を設けたりすることで校内研究の充実を図りたい。